

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

国立環境研究所発行「IPCC 第5次評価報告書のポイントを読む」 (要約パート3)

【関連コラム】 この異常気象は地球温暖化が原因？

- △ 社会的に大被害をもたらした気象イベントについて、気候モデルを使用した地球温暖化寄与度調査が進められ、記録的な極端現象発生には、自然本体の「ゆらぎ」が最も重要であることが多い一方、一部は地球温暖化進行により、発生確率が大きく引き上げられていることが分かりました。
- △ 言い換えれば、極端な現象の中でも、地球温暖化進行に伴うリスク高まりの傾向が認められるものと、まだまだ関係性の不明確なものがあることが分かっています。これは長期間にわたって一定品質を維持した観測データ収集が困難なこと、極端現象の発生頻度が変わるメカニズムの理解が不十分であること、などが原因です。
- △ 1880年から2012年にかけて、世界平均で0.85℃の温度上昇が認められていますが、ここ15年程度の期間では、気温上昇が留まっています（ハイエイタス hiatus）。その主な原因は、太平洋における大気と海洋の循環が、この期間、「自然のゆらぎ」の影響で特徴的な状態になっていること、と考えられています。
- △ つまり、太平洋の表層が冷たく、西側の太平洋内部に暖かい海水が閉じ込められる、ラニーニャ現象に似た状況が続きやすい状態にあることで、地球表面の平均気温が上がっていないように見えるのです。「自然のゆらぎ」は十年から数十年程度の間隔でゆれうごくので、地球温暖化はいずれ元のスピードに戻ると考えられています。

以 上